

## 農業後継者育成基金事業

### 令和2年度農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 鹿児島県立種子島高等学校

#### 1 目的

本校の入学生の多くは第二種兼業農家と非農家であるため、農業学習・農業体験を行うことは、興味・関心を高めていくために必要であり、地域農業の実態を把握させるための視察研修や職場体験学習は、教育的効果も高いと考える。本事業は、生徒がより見聞を広め、農業への理解と就農意欲を醸成することを目的としている。

#### 2 実施状況

##### (1) 地域交流

生物生産科3年草花班・生物活用選択生10名で、下西地域の方々とのふれあい体験を行った。学校での日頃の学習を活かし、地域の方と花壇の作成や鉢に植え付けるときのポイントなどを教え合い、学校と地域の方々と共に生きるために必要なコミュニケーション力を養った。



ふれあい体験

##### (2) 2年生島内視察研修

生物生産科2年28名が、島内の先進的農家及び施設を見学した。新光糖業では、サトウキビ栽培の現状や製糖工程について説明をいただき、工場見学では特にHACCPを重視した工程管理について学んだ。JAでは、近年栽培面積が拡大しているブロッコリーについて、選果場の機能がより充実したことで、有利な共同販売体制になったことなどを学習した。松元牧場では、搾乳ロボットを見学し、日頃の学校での活動との違いや先進的な経営などについて学習できた。



搾乳ロボットの見学

#### 3 今後の課題、取組

本事業を活用することで、生徒にとって有意義な視察や研修、交流が可能となった。生徒の意欲が研修後も継続できるように、学校の農業教育と並行していきたい。本年度は1、2年生が島内視察を行うとともに、農業大学校など島外視察や初めての取組である地域交流を行った。一方で、小学校での出前授業を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施を見送ることとなった。来年度は、本年度以上に活動の場を増やしていきたいように、日々の学習に力を注いでいきたい。

本年度の農業に関する進路実績は、農業関連産業への就職が4名であった。来年度は農業大学校への進学者や農業従事者および農業理解者を育てることで、地域農業を支える人材の育成に尽力していきたい。